

令和4年度
社会福祉法人こころの種福祉会
つくばトッポンチーノ保育園
つくばモンテッソーリアフタースクール

事業報告書

理事長三上恵子

<令和4年度の総括「つくばトッポンチーノ保育園」>

令和4年度の保育界は新型コロナオミクロン株による家庭内感染の拡大で多くの保育施設は在園児はもちろんのこと、職員に及ぶ難局を迎え、予定していた多くの行事などの変更を余儀なくされてきた。このような中でも当園においてはいわゆる「クラスター」現象を起こさずに家庭での感染に留まっていたことはまさに幸いなことであった。万全の感染防止対策を徹底してきたことが功を奏し、保育園開園継続という社会貢献の一助が果たせたことを安堵と共に誇りに思う今日この頃である。令和5年度はいよいよ新型コロナも2類から5類へと分類され、世間の人々の動きにも何ら歯止めはかからない状況となる。このことが保育園の運営において黒い影を落とさないことを願いつつ、在園家庭と共に獲得してきたさまざまな対策を活かし、健やかな運営を果たせるよう尽力するのみである。このような中、当保育園が茨城県保育協議会での「保育研究発表」を「つくばブロック代表」として論文と動画という形式で発表し、県での代表に選ばれ関東ブロック大会にて発表の機会を得ることができたのは、歩みの評価として一つの大きな喜びである。

さて前人未踏のコロナ禍であったが、多くの学びを得て、新たな視野を持って保育の見直しを行えたことは大きな財産である。

世間の「働き方改革」の中で依然として変えようがないほどの業務過多を背負う保育園としては「保育の質の向上」を鑑みることはさらなる難題ではある。

しかしながら「保育の質」を改めて求め学ぶことで、結果としてこども中心の保育を「保育園利用者」にも理解を促し、保育者の働き方改革を促進し共感を得ることに繋がっていることを強く感じている。新たな時代を先駆ける保育として長年当園が実践している「モンテッソーリ教育」を柱とした保育は個々を守りながら育む保育方法として実に多大な貢献を果たせる方法でありさらに深めること、そして家庭保育での子育てに活かして頂くことを最善の支援として次年度に向けても継続向上を果たしたいところである。

いかなる時代も保育・教育の課題は家庭との連携をもってなされるものであり、子どもの生活を切り取って「保育園だけ」「家庭での子育てだけ」と区切れるものではない。いかなる場合もこどもの育ちを中心として園と家庭での連携、そして相互理解のもと

で子どもの発達、心の在り様を捉えていかなければならない。この原点を決して忘れることなく、当保育園は運営され、こどもの幸福感を見守る眼差しを豊かに育む使命があるろうかと考えている。

「保育園は預かり場所」といった画一的な前時代的な先入観を万人が捨てられるよう尽力し、こどもが未来に向かう世の中の意識が少しでも変わって行けるようお願いしたいと思う。

今年度の事業はコロナ禍分断への挑戦であり、徹底した対策のもと少しでもふれあいの方向性を意図した開催となっている。

下記今年度の活動を振り返ります。

* コロナ禍に保育園を利用する保護者への支援を充実する

・ 在園家庭への保育室開放

日々の子どもたちの幸せな一コマを目の当たりにして頂くことで、園生活に興味を深めて頂くとともに、幸福感に満たされた子どもたちの姿を通して幸せの連鎖を生む機会となった。

・ 保護者対象の子育て相談会の実施

参加者が相互に交流を図れるよう子育て相談の場を取り入れるとともに、子育てのヒントとなる情報を提供する。

・ 園の畑で保護者と共に畑体験

畑を耕したその時のみならず、観察時や収穫時にも子どもたちは「自分たちが耕した畑で育った野菜なんだ」という記憶と共に幸福感がわきあがる姿があった。

・在園家庭の保護者や祖父母が育てた野菜を頂戴し調理提供

家族で育てた野菜を友だちに紹介し、「どうぞ」の気持ちを届け、「ありがとう」の気持ちで頂き味わうことで、子どもたちの間に幸福感が連鎖するだけでなく、我が子の姿を通して提供したご家庭、その他のご家庭にも笑顔と感謝の思いが繋がった。



・園で育てている野菜やハーブを在園家庭へ無償提供

日頃子どもたちが大切に育てている野菜や子どもたちにやすらぎの香りを届けてくれるハーブを園生活で活用するだけでなく、在園のご家庭にもお分けすることで、子どもたちの五感が幸福感に満たされ、園と家庭に安らぎの架け橋を生んだ。

・近隣住民の方や地域のお米屋さんがお届けくださった野菜を在園家庭へ提供

地域の方々に温かなエールを頂けているからこそ、子どもたちは日々穏やかで幸せな園生活を送ることができている。地域の方からのこのような頂き物はお分けできる限り保護者にもお届けし、子どもたちの園生活が幸せな時間と空間に守られているということを感じてもらえればと願って



・近隣住民の方が育てたじゃがいもを掘るお手伝いを職員と子どもたちが行い、掘り上げたじゃがいもを在園家庭へ提供

高齢のため一人で掘り上げることが大変であると立ち話で伺い、職員と子どもたちで芋ほりのお手伝いをした。保護者からは日頃の野菜のご提供への感謝と共に、我が子が少しでもお返しができることを喜ぶ声が数々上がった。「お手伝いしてくれてありがとう」「いつもありがとうございます」「貴重な機会をありがとうございます」と感謝の思いの連鎖が生まれ、保育者にとっても幸福感に満たされたひと時となった。



・松屋製麺所とのコラボ企画

ラーメンを園で販売代行

コロナ禍で外食もできない状況は、就労を抱えながらの子育て世代にとって非常に大きな「食」の負担ともなっている。家庭で安心して「食」を楽しむ機会を提供できればという考えのもと、在園児用にオリジナル予約フォームを作成し事前に購入予約を取り、ラーメンの引き渡しを園で行った。

松屋製麺所所長によるたい焼きイベント



貴重なピュアホワイトコーンをお預かりし調理提供及び作品作りに活用



卒園生である漫画家羽賀翔一先生に在園家庭の似顔絵をプレゼントしていただく

我が子と同じ地で幼児期を過ごした卒園生の来園は、子育てに奮闘する保護者に夢と希望を届けた。



・シェイクアウト訓練への参加及び保護者への周知

離れていても心は一つ、家族を思う気持ちは緊急時に何よりの励みとなるに違いないことを訓練を通じて保護者と共に実感しあう機会となった。



・子育てに奮闘する保護者にお迎えの時間帯からイルミネーションを点灯

保護者にとってお迎えは我が子との再会に思わず笑みがこぼれる瞬間であるに違いないが、疲れ果てた帰宅後に待ち受ける怒涛の子育てのひと時を思うと時にはため息をつきたくなる瞬間にもなり得る。そのようなため息を吹き飛ばすべく、我が子とのつかの間の語らいを生む時間と空間をお届けした。



・シューフィット

シューフィッターの方(ドイツの国家資格である整形外科靴技術者「シューゲゼレ」を取得したストウ靴店須藤様による足の測定を実施した。サイズだけでなく足の形や歩行の状態をみて頂き保護者にお知らせしたところ、日頃の靴選びの際に助かっていると喜びの声を頂いている。



・Zoom イベントの工夫(当法人評議員藤ノ木様ボランティアご協力による)

コロナ禍において孤立しがちな子育てに奮闘する保護者にとって、家で楽しめる活動をお届けすることを目的とした Zoom イベントも取り入れている。コロナ禍で外出をしたり、他の家庭と交流することも憚られる状況下で育児に疲弊している保護者もいるのではないかという視点のもと、新たな保護者支援を実現していく必要もあると感じている。

・卒園生との交流

卒園生からは季節のお便りが届くことも多い。また、卒園生の兄弟姉妹が引き続き園に在園しているケースも多いので、コロナ禍でも卒園生が当園に関われるようなオンラインイベントなどを取り入れるようにしている。

・外国籍子育て家庭に対して

個別に Zoom や面談、メール等で相談に応じる。お便りなどの翻訳や解説支援。

・ SNS を活用した情報発信

SNS を利用し、広く情報提供を行う。 SNS の掲載に関しては保護者が許容した個人情報の範囲に応じて発信。

・ 園生活の写真の無償提供及び一斉メール

手書きの連絡帳とは別に毎日園長からのメッセージを一斉メールにて配信。また、子どもたちの一日の様子を毎日何百枚単位で無料で配信している。我が子の姿だけでなく、園全体の子どもの姿を園長からのメッセージや写真を通して毎日発信することで、我が子自身の育ちを柔軟な気持ちで見守るきっかけとなることを願い継続して取り組んでいる。また、園の教育活動や方針への理解を深めることで、見通しのある子育てを保護者と連携して取り組むことができている。また、一斉メールでは季節や伝統行事にちなんだ小話を紹介。

・ 給食の献立レシピの紹介

子どもたち自身が家庭で給食の味を喜んで家族に話すことも多く、保護者からレシピを知りたいという声も多くあがっていることから、定期的に給食のレシピを一斉メールで配信している。保護者からも喜びのお声を頂いているので、保育園と家庭を「食」を通してつなぐきっかけとなるよう継続していきたい。



・ 在園家庭希望者へ木工教室開催

家具づくりを開催。登降園時につくりたい家具のイメージをヒヤリングしながらイベントを迎え、家族で家具づくりを体験。

* 地域のすべての子育て家庭への支援を充実する

・ 近隣子育て世帯や高齢者への声掛け

当園の近隣には妊娠中の方や子育て世帯の方、高齢の方も多く園舎付近をお散歩しているお姿を多々お見掛けする。一見お元気そうに見えても妊娠中の不調や終わりのない育児の日に心が疲弊してしまうと心のよりどころを失ってしまったり、大人とコミュニケーションを交わす場がほとんどなくなってしまうことがあり、高齢の方においても孤独な環境に身を置いていらっしゃることも想定される。通りすぎるわずかな時間だけではなかなか全面的な支援には至れないかもしれないが、一言でも二言でも声をお掛けするようにすることで、「つながり」を感じていただけるように心掛けている。社会的に閉ざされた環境に身を置きがちになる妊娠期や産後、高齢期に緊急時や災害時な

ど身に迫る危険を感じた際、当園が安心できる場の一つとなれることでお力になれることもあるかもしれないという思いを職員一人ひとりが大切にできるように努めている。当園が地域の皆さまと円満な関係を築くことが在園家庭の皆さまによりよい保育を提供することにも繋がり、地域への貢献は社会福祉施設としての責務と使命でもあるため、今後も継続していきたい。

・地域の中学校に通う生徒たちへの待機場所の無償提供及び挨拶活動

交通量もある中、中学生が登校時道路の端で待ち合わせていることから、安全確保のため当法人の日中使用しない駐車場を待機場所として提供している。待機場所を提供している生徒以外にも、園舎前を通る中学生に対し毎朝挨拶活動を行っており、万一困るような事態に陥った時にも安心して園を訪ねてもらえるような信頼関係を築けるようにしている。

・近隣小学校の登下校の見守り及び挨拶活動

遠くから歩いて登校している児童もいることから登校中に体調不良に陥るようなこともあるため、日頃から挨拶活動をすることで児童の様子を見守るとともに、児童が安心して助けを求められるような関係を築くことを目的としている。実際に外気温の影響からの体調不良と思われる児童を一時的に保護し、学校まで引率した経緯もあるため、今後もこの活動を継続できるよう努めたい。

・近隣小学校利用者に対する一時的な駐車スペースの無償提供

小学校でのイベント時は小学校の駐車場を使用できないことも多く、そのような場合に遠方から歩いてくることにお困りの方がいることを知り、利用者に支障のない時間帯等であれば駐車スペースを無償提供するようにしている。

・地域のラジオ番組への出演

フリースクール BEK ラボ様が進行なさるラジオ番組「みんなのま・な・び」へのゲストとしてインタビューを受け、リスナーの皆さまにモンテッソーリ教育について学びを深めていただけるよう尽力した。

*** 保幼小接続連携活動**

・当園が事務局を務め地域の保育・教育施設と連携をした。

内容：Zoom による会議 対面会議

小学校教諭の視察訪問による幼児教育へのご理解をお願いし、就学しても活

かせる場面などを知って頂いた

当地区が活動が活発であるとのことを県の教育庁から評価いただき、そのご依頼で会議風景などの動画撮影を栄小学校にて行った

*つくば市内民間保育協議会からの依頼によりつくば市内園長の視察を受け入れ、学びの機会とした（当園のモンテッソーリ教育へのご理解を頂くためのパンフレットを作成）

* 職員の研修

厚労省の定めるキャリアアップによる保育力の向上、子育て支援員資格取得、放課後児童支援員資格取得、茨城県保育協議会研修、同つくばブロック研修などほとんどが動画配信による実践となり、多くの職員を対象として参加を促すことができた。「働き方改革」の中、いかに学んで活かし、意欲に繋げていくかは大きな機会であり向上のための必須課題である。当園は北者一人一人の長い人生に寄与できるよう足元から先の日々に向けた学びに力を入れさせていただいた。

* 職員の確保

短期的に解決の見通しも立たない保育士不足の状況をなんとか安定させるための取り組みとして茨城県保育協議会の立ち上げた「保育のポータルサイト」を積極的に活用し人材の確保に臨んだ。非常勤ではあるが数人の方に当法人にご就労いただくことができた。先を見て子育てをさせていただくことで、将来の安定につなげたい。

* 苦情解決のうち報告すべき事項

・令和4年度、苦情解決委員（第三者委員）への相談はありませんでした。

* 事業報告まとめ

長いコロナ禍、多くの保育現場は苦悩を吐き出す場所もないままに、コロナだけでなく世相も迎え撃つかのように猛進し続けていた。保育者が「子どもを保育する」という基本に忠実に従い奮闘すれども日を重ねるごとに「子どもの本質」を見失いそうになったり、保育所（園）と家庭との絆が希薄になってしまうような不安に襲われていたことも確かなことである。こうした未だかつてないほどの「苦悩と葛藤」をなんとか打開し、保育園に係るすべての人々と笑顔を見交わすことができるように一つ一つの事業に精魂を込め、そして次年度への笑顔の連鎖につながったのではないかと振り返っている。家庭や地域との絆や連帯の深まりに新たな希望を抱くことができた令和4年度であっ

た。

日を迎える」この事実と気づきがあるからこそ現場の努力を続けて行けるのだ。日頃の保育を伝え合い、家庭や地域との絆や連帯の深まりに新たな希望を抱きながら、明日の歩みに挑戦する仲間がさらに誕生していくことが研究発表をさせて頂けた一番の喜びである。この記録にお目通しいただきました多くの方に心より感謝し、まとめとさせていただきます。

<令和4年度の総括「つくばモンテッソーリアフタースクール」>

長いコロナ禍の影響を受けながらもクラスターにつながることはなく、安定した開園を継続でき、放課後のこどもの居場所として安定感を持って運営をはたすことができた。担当職員はいずれも放課後児童支援員、小学校教育経験者であり、異年齢の縦割りの児童に多岐にわたる活動体験を果たすことができた。17,8名ほどの利用児童の大半は栄小学校である。遊びの楽しみ、畑での栽培、収穫の喜びはもちろんであるが、学習面での取り残しがないう、宿題への取り組み、不足しがちな学習時間や理解の補填など、家庭に疲れて帰った後ではできない取り組みを丁寧に実践している。

放課後の時間をリラックスしながら明日への学習意欲につながる生活を心がけている。長期休暇にはできるだけそれぞれが課題を選び「調べ学習」などへの手順が身につくように見守り指導している。生活・学習のリズムを各々の児童が自分に合ったペースを身に付けられるようアドバイスし、実践している。

毎年積み重ねている通園児家庭との信頼関係は深まり、長期休暇なども安心して過ごすかけがえのない場所として当アフタースクールは成長を遂げていることを大変嬉しく、関係者への感謝を深くしている。

四季折々、放課後の子どもたちを支え、たくさんの学びと遊びを提供しているが、どの子ども決して一年中健やかなわけではない。成長とともに、多くの価値観も育ち、学校や家庭などでの多様性の中、どの子ども懸命に生きている。心のよりどころを決して失わないう、日々の姿をよくよく観察し、変化を捉えながら、適切なアプローチを心がけている。社会福祉法人の運営だからこそ対応できる家庭への寄り添いを中心に子ども達と共に歩む場でありたい。健やかな学校生活のため、当アフタースクールはこどもの健康と成長を見守り、意欲溢れる日々の人格形成の土壌となることを志し、次年度に向かいたい。